



打ち合わせる社協や事業所のメンバー

伴社協は十一月二十四日、沼田合同庁舎の交流スペースで「とも福祉フェスタ」を開きます。地域の障がい者福祉施設を紹介し「福祉の伴づくり元年」の新たな取り組みとします。

「太田川学園」「工房とも」「ひだまりの家」「どんぐり作業所」などの障がい福祉サービス事業所を予定。フェスタは、各ブースを設け、就労・生活支援など活動を紹介

福祉のまち 相互理解を 新庁舎でフェスタ 11月24日開催

伴社協は十一月二十四日、沼田

介してもらいます。

当日は、沼田公民館で障がい者の社会参加を進める「安佐南区音楽交流会」も開催されます。安佐南区社協、障がい者支援事業所や自立支援団体、大学生たちが参加します。

障がいのある人と地域の人の触れ合いで相互理解を深める「フェスタと同じ趣旨から音楽交流会と連携し、相談コーナーも共同で開設。交流スペースの展示は一週間程度を予定します。

三月、福祉の伴づくりに住民主体の取り組みを考えるワークショップを開きました。新庁舎「火山館」の交流スペースを活用する福祉フェスタは、その提案を受けて企画します。

(障がい者福祉部会 石富三弘部長)



福祉委員研修会が八月一日開かれ、民生委員児童委員や町内会

福祉の担い手連携

が参加し、認知症を予防する周りの接し方を学びました。

(総務部会 大津信之部長)



サロンで認知症学ぶ

沼田老人いこいの家サロンは八月十八日、三十周年を迎えた共立病院沼田診療所の西原一樹所長(写真)が講演しました。四十人



*連絡先は老人いこいの家
電話八四八―三二七七

(上野昭司事務局長)

長、社協メンバーら五十二人が参加しました。広島修道大のウイリアム・B・クリアリー教授(写真右端)を講師に招き、一年間の活動に連携を強めました。

(福祉委員部会 有馬義憲部長)

「ボランティアバンクとも」から

七月十三日、会員登録者連絡会を開き、戸山・伴・大塚地域包括支援センターの小田尚社会福祉士を講師に共生社会とボランティアの役割を学びました(写真)。お年寄りの地域での支え合いに①訪問作業支援②サロンのお手伝い③伴あんしんネットを三本柱に百余人の会員が活動しています。

財政健全化に第一歩

伴社協は六月一日、評議員会を開き、令和元年度一般会計予算を決めました。善意銀行から繰り入れ廃止と事業見直しを受け、総額は前年度実績より62万4488円減の286万8529円としました。

支出面では、各部事業予算の二〇%減を掲げました。団体助成金(23万3000円)は「みんなの善意銀行」の特別会計に移しました。

収入面では、町民(三千四十八世帯)が町内会経由で社協に納める会費(一世帯当たり二百円)は全体の二割余。特別会計繰り入れ額は本年度一三・九%へ依存比率を半減させました。

伴晴英会長は「各部会が見直しの先頭に立った。基盤強化にみなさんの理解をお願いしたい」と協力を求めました。

事業・助成金6件見直し

伴社協は、超高齢社会への対応や共生社会の実現に向け、事業・助成金等を見直しています。

本年度に経費節減を決めた六項目は次の通りです。各種団体助成金の見直しは来年度の検討としました。

▽一人暮らし高齢者ふれあい会廃止
↓サロンに併合する

▽グラウンドゴルフ弁当代補助金
Ⅱ参加者が負担する

▽敬老会への参加者補助金
Ⅱ百円減額
(対象者一人五百円→四百円)

▽サロンへの参加者補助金
Ⅱ百円減額
(対象者一人二百円→百円)

▽子どもと高齢者のふれあい会補助金
Ⅱ対象を子どもと高齢者に絞る

▽夏休みラジオ体操参加者補助金
Ⅱ対象を子どもに絞る

お年寄りの交流拠点の一つのサロンや敬老会については補助金額の増大に合わせた措置です。サロンは、今後も充実させたい活動として現在六カ所の会場の増加に努めます。

(高齢者福祉部会 伊藤修太郎長)



三城田町内会の敬老祝賀会 (9月16日)

沼田のお宝発見

NPO法人沼田まちづくり協議会が「沼田のお宝発見」散策ツアーを始めました(写真)。ア



大原地区の活き活きサロンは昨年四月、老人いこいの家が始まりました。アストラムラインで分断された近隣づきあいが復活。六月は「うんち」の健康教室が好評でした。

第二木曜日午後1時半。



ストラムライン駅を出発点に四コースを用意。ツアー実施の前月、沼田公民館だよりで参加者(定員十五人)を募集。三時間歩いて郷土愛を育む企画が好評です。